

A氏（男性31歳）の調書

1. 言いたくないことは言わなくてもよいと聞きました。嘘をついてもよいという意味ではないことも聞きました。
2. 実家には祖母と両親がいます。兄弟の内では、私が1番上で、弟が1人、妹も1人います。2人とも家を出て、それぞれ、まじめに仕事をしています。
3. 私は健康に育ち、元気のよい子どもでした。小学校時代の成績は1組40人くらいの中で、10番以内であることが多かったと思います。中学校では突っ張った仲間とつきあい始め、2年生（14歳）からシンナーを吸引しました。暴走族にもかかわり、高校に入りましたが、1年の夏前に中退しました。実家に住み続け、親に食べさせてもらいました。遊ぶ金がほしいときは、短期間の仕事をしました。
4. 覚醒剤は20歳頃に先輩に勧められて初めて使いました。はじめはあぶりだったのですが、1か月以内には静脈注射で使うようになり、3か月以内には毎週、使用するようになりました。23歳頃、覚醒剤の入手金を親からだまし取ることを繰り返したので、親は私を実家から出しました。私は、キャバクラで働く女性とつきあい始めました。彼女は稼ぎがよく、ご飯を食べさせてくれたので、彼女の部屋に転がり込みました。私もほとんど毎日繁華街で店への呼び込みをしていました。
5. 覚醒剤も毎週使っていました。繁華街での呼び込みは徐々に行かなくなり、26歳時に、私は働かなくなりました。面倒になったのです。彼女にお金をもらっていたら、彼女はいなくなりました。私は不眠があり、精神科に受診し、それを理由にして、生活保護を受けるようになりました。それでも覚醒剤が欲しくて、ときに繁華街で呼び込みをして、覚醒剤を使い続けました。
6. 覚醒剤を使うことは違法行為だと知っていました。また、薬物のためか物事を途中で放り出すことを続けてきました。友人は自分の生活をちゃんとしています。でも、私はそうではありません。負けています。3年前の丁度今頃、本当に覚醒剤をやめようと思い、3日ほど使いませんでした。胸が苦しくなり、息が詰まり、体が重くなり、動けなくなりました。覚醒剤をするとたちまち治るのです。何回もやめようとしたのですが、無理でした。
7. 精神科の病院が覚醒剤乱用者を通報しないことや、条件反射制御法という良い治療法があることはテレビを見て、知っていました。近くにも病院がありました。で

も、生活費は福祉から貰えるし、治療を受けなくても、生きられると思っていました。

8. 生活保護は5年もらっています。3日ぶりに呼び込みをして、もらった金をもって売人のところに行き、一発だけ注射してもらいました。その後、自宅へ向かって歩いていると、パトカーが見えたので、違う方向に向かいました。パトカーが追いかけてきて職務質問を受けました。緊張して回答していたら、注射痕を見つけられ、警察署に連れて行かれました。採尿され、簡易キットで覚醒剤が陽性になりました。一旦、帰されましたが、3週間ほどして逮捕されました。精密な検査でも覚醒剤が検出されたと聞きました。覚醒剤を使っていたので、特に驚きはありませんでした。

令和元年〇〇月〇〇日

署名〇〇〇〇 捺印